

# 中間報告

20.10.27

## 【防災教育開発機構】

### I 進捗状況報告

#### 1. 防災科学技術教育関連教材等の作成

##### (1) 防災教育の全国の事例の整理・分類

- ・ 「ぼうさい甲子園」「防災教育チャレンジプラン」や兵庫県内、神戸市内の防災教育などの情報収集がほぼ終了。現在は取組を分類中。

##### (2) 最先端防災科学技術の知見を組み込んだ教材等の試行的開発

- ・ 災害を起こす自然現象を正しく、かつ、わかりやすく理解してもらえるよう、イラスト入りのカードなどとワークシートを利用して、現在、神戸学院大学を中心に教材を作成中。現在はまだアイデアを固める段階であるが、試作教材が出来次第、小学校等での試行を行い、神戸海洋气象台、神戸市消防局の監修後、最終形として提案予定。
- ・ GISソフトを活用した、高校生によるハザードマップの作成を試行中。まち歩きによる観察成果とともに、内閣府と神戸市が共同整備した高空間分解能の地震リスクマップや、兵庫県の整備した最新の想定津波氾濫区域図等を3次元GISに展開する予定。現在、舞子高等学校で授業実施中(2学期)。試行結果にもとづき、カリキュラム案をとりまとめ予定。

#### 2. 学校の教職員等を対象とした研修プログラムの開発・実施

##### (1) 防災教育推進指導員養成講座等のプログラム化に向けた検討・評価

- ・ 防災教育推進指導員養成講座、震災・学校支援チーム(EARTH)訓練・研修会の評価・検証を行い、研修プログラムを作成するため、有識者、震災・学校支援チーム(EARTH)員(研究・企画班)、県教育委員会事務局の指導主事等の委員をもって構成する「防災教育研修プログラム検討委員会」を設置。検討委員会の開催は、10月、12月、1月の予定。

## (2) 神戸市内でのモデル的実践

- ・ 防災教育副読本とビジュアル版 DVD「しあわせはこぼろ（幸せ運ぼう）」の効果的な活用を目指した授業開発（各教科等との関連を含む）。
- ・ 災害別と時間帯別の避難訓練のあり方についての研究と情報交換。
- ・ 保護者や防災福祉コミュニティとの連携による防災訓練及び防災研修。
- ・ 優れた防災体制や防災訓練等を実施している公共施設や民間企業等からの学校現場でも生かせる情報の収集。
- ・ 神戸市危機管理室や消防局予防課と連携しての全市小・中学校、高等学校、特別支援学校の防災教育担当者研修会の実施。

## **3. 実践的な防災教育プログラム等の開発・実施**

### (1) 防災教育推進指導員養成講座等のプログラム化に向けた検討・評価

- ・ 今年度の講座はすでに昨年段階から内容が決まっており、実施中。過去の内容を精査し、参加者の意見を聞きながら、同時に震災・学校支援チーム（EARTH）の要請も加味して、新たな枠組み、内容を作成予定。出来上がったものについては他府県へ公表の予定。

### (2) 神戸市内でのモデル的実践

- ・ 神戸市消防局や各区消防署等と連携しての防災学習や防災訓練。  
（神戸市防災教育支援プロジェクト：12 小学校がモデル校となる。）
- ・ 防災教育副読本とビジュアル版 DVD「しあわせはこぼろ（幸せ運ぼう）」の年間学習指導計画と重点教材設定による防災学習の実践（神戸市の全小学校（169）・中学校（83））。
- ・ 増水事故の教訓を生かした教材開発（小学校低・中・高学年版と中学校版）と小中学校における実践と評価・改善に向けた取組。
- ・ 工夫された防災訓練や 1.17 集会、防災週間の設定などを各学校の特色ある教育活動の家庭・地域との連携強化。

### (3) はばタン防災教育の実施

- ・ 科学的な根拠を持ちながら、子供が関心を持てる教育プログラム実践の実験を実施。人と防災未来センター研究員が舞子高校生に講義を実施し、同講義内容を参考に、舞子高校生が小学生に対し、兵庫県防災マスコット（はばタン）も活用して「地震」、「火山」等の授業（7～9月に3回）。

## **4. 地域の実情に応じた先進的な取組の実施**

### **(1) 防災教育の兵庫の事例の整理・分類**

※ 上記「1 (1) 防災教育の全国の実例の整理・分類」参照。

### **(2) 若者語り部活動のDVD教材化**

- ・ 震災当時子供だった27人の若者が震災の経験とその後の生き方などを語る、「私の語り」を収録。震災を知らない子供達だけでなく、震災を経験した多くの世代に対し、人と防災未来センター内での上映(9/9～)やDVD教材(9/16完成)の配布を通じ、成果普及中。事業全体の展開に合わせ、DVD教材の全国普及の準備中。

### **(3) 地域内人材ネットワークの確立**

- ・ 防災教育開発機構ホームページを、人と防災未来センター・ホームページ上に開設(7/16)。
- ・ 記者発表、委員会等の公開開催、成果物の提供など、マスコミとの連携を重視して事業展開。新聞、テレビ等で多数の報道。

## Ⅱ 審査意見への対処方針

**【意見 1】** 継続的な活動の基盤となるよう、事業実施の間に防災教育開発機構の体制を整えること。

(対処方針)

事業期間後も防災教育開発機構として活動を継続的に行っていくため、平成 20 年度は地域内ネットワークの確立、平成 21 年度は地域外とのネットワークの充実を図る。

**【意見 2】** 震災を直接経験していない子供たちにも体験を語り継ぐ方法の確立を図ること。

(対処方針)

震災当時子供だった若者が、震災を経験していない子供に経験を語り継ぎ、その成果を DVD 教材化することなどにより、語り継ぎ方法の確立を図る。

**【意見 3】** これまでの防災教育の成果を再整理し、現場での活動に使いやすい教材等の開発につなげること。

(対処方針)

防災教育開発機構が中心となって、これまでの防災教育の成果の再整理を行い、新たな教材等を開発する。

**【意見 4】** 兵庫県は大震災の経験や教訓等の多くの有形無形の知見や成果等を有することから、それらを防災教育に利用しやすいように体系化を図ること。その際に、科学的知見を活用すること。

(対処方針)

大震災で「命・思いやり・助け合い」という防災教育の原点を体験した当地域では、その教訓等を防災教育に活かすための様々な取組を行ってきた。今回の事業では、他地域にも普及させることを目指して、今までの取組の再整理・体系化を図るので、その意味で、大震災の教訓等の活用のされ方も再整理・体系化が図られることとなる。その際、科学的知見も可能な限り活用する。

## ＜参考資料＞

・事業の流れ 〈面接審査会(20.6.2)説明資料〉	1
・GISソフトを活用したハザードマップ作成の授業風景	2
・神戸市内モデル小学校での消防局との連携による防災訓練風景	4
・人と防災未来センター 防災未来学校プログラム	6
・防災教育開発機構ホームページ	7
・新聞報道	8
〈防災教育開発機構〉	8
〈次世代語り部事業〉	11
〈はばタン防災教室〉	23
〈神戸市内モデル小学校での防災授業〉	25

【別添】DVD教材：ユース震災語り部「私の語り」

※ 参考資料は、目次のみ添付。